

出張授業や講演でお伝えしていること

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

月に一度くらいですが、最近はおちこちでお話をする機会をいただいています。1月19日には、佐野短期大学にお招きいただきました。同大学は、2月から「経営実践特別講座」という講座を開講して、企業経営者を毎週呼び、「企業の経営はこのようにやっているんだよ」「経営者は、こんな人がやっているんだよ」というようなことを、学生たちの前でお話してもらおう機会を設けています。私は8人目で、最後のお話をさせていただきました。70名ほどの学生が、私の話を聴いて下さいました。

私が一番力を入れてお話ししたのは、勉強は続けるものだということです。短期大学卒業後は、できれば4年生大学に進学したり、コミュニティカレッジや専修学校、専門学校に行ったり、あるいは仕事をしながら勉強を続けることが大事だよという話をしました。

1月31日には、三重県の桑名にある桑名西高等学校で、60名の先生を前にしてお話をさせていただきました。開倫塾は、2002年度に栃木県経営品質知事賞をいただきましたが、教育関係では日本で初めてだということで、時々いろいろなところからお招きを受けます。三重県は、前北川知事の提唱で、行政も民間なみの経営手法で行わなければならない、行政でも経営の品質を高めるような動きをしなければいけないということで、行政の経営品質を高めようという動きが盛んな県です。その中に、教育においても経営の品質を高めようという運動がありまして、三重県内の高等学校は全部それに取り組むことになったということです。

昨年、桑名西高等学校の教頭先生である清水先生に、開倫塾を見学させていただきました。そこで、いよいよ始まるのでキックオフという感じだが、それに際して、経営品質とは何かという話をしてほしいとの要請があったのが事の次第です。学校と経営とはどのような関係があるのか、学校の経営の品質を高めるにはどのようにすればよいのかというのは、なかなか難しいテーマです。ただ、生徒の立場や親の立場に立って物事を考えること、それは決して保護者や生徒に迎合するという意味ではありませんが、生徒が今どのような状況にあって、何が一番必要とされるのかを念頭に置きながら、つ

まり、すべてのことを考えて学校の経営もする必要があると思います。そして、おそらくそれが日本経営品質の顧客本位ということであると思うという話をさせていただきました。

それから、独自能力、つまり自身の独自の能力を発揮してもらって先生方の力を最大限に引き出し、権限を大幅に委譲する。これを行うことによって、社会との調和を図るという経営品質の考え方を少し紹介させていただきました。また、この番組でも何回かお話をさせていただいていますが、日本の高校生はあまり勉強をしないまま進学する現実があり、それはかなり大きな問題ではないかと私は認識していますので、それについても話をさせていただきました。栃木県の高校生は勉強をしないけれども、三重県の高校生もしないのではないかと聞きましたら、その通りだということで認識を同じにしました。

私は勉強が好きなので、あちこちの勉強会に出席しています。東京大学の教育研究開発機構というところに、日本の教育システムを研究するグループがあります。そこが1月29日に行うシンポジウムに、誰でも参加できるのだろうかと思っていましたら、私の入っている日本評価学会から案内がきました。シンポジウムのテーマは、「教育の失敗」というものすごいものでした。私は勘違いをしまして、ついに東京大学も日本の教育が失敗したことに気づいて、東京大学自身の影響の大きさを認識し、悔い改めて反省し、日本の教育改革の先頭に立とうとしているのかという思いで行ったところ、そうではなく、学問的な教育社会学の先生方が集まって、データをベースにして教育のあり方がこれでよいのか等、日本の教育システムについてじっくり考えようという5年計画のプログラムでした。

1月17日にあった東京大学の産学連携協議会には、開倫塾もその中の一員として参加させていただきました。そこに出てきた神戸大学のコシオ先生がおっしゃっていたデータは、「日本の高校生は、ほとんど勉強しない・30分～1時間半くらいしか勉強しないが80%くらいいる」というもので、私と同じデータを使っていました。日本を代表する東京大学で開かれたシンポジウムでは、私が紹介した日本青少年研究所の高校生の未来意識に関する調査資料と同じものを使っていました。

また、三重県の先生方も同じような認識をしていましたので、今の高校教育の抱える問題は、高校生はほとんど勉強しないということではないかと思いました。ちなみに、中国の高校生は、75%の人が2時間以上勉強しています。大学院の博士課程に行きたい人が28%、修士課程まで行きたい人が32%、つまり中国の高校生の60%は、大学院で勉強したいと考えています。それに対して、日本の高校生で大学院に行って勉強したいと思っている人は10%内外です。アジアの高校生に比べると非常に差がありますので、日本の高校生には相当頑張ってくださいたいと思います。皆さんは、どのようにお考えでしょうか。